

裁縫ミシンの分解修理の技術習得について

金 田 ト シ 子

I はじめに

指導要領の改訂に伴って職業・家庭科は技術・家庭科として発足することになりました。すなわち、生徒の現在および将来の生活に必要な、技術に関する領域を担当する教科で、実践的活動を通じて学習させる教科であります。しかし現在においても、われわれの生活に必要な基礎的技術の習得は、その目標にも示されている通り職業・家庭科の重要な分野を占めているのであります。ところが現在の技術・家庭科のあり方はある一つのことを製作してその喜びを味わいつつ、その過程において、基礎的技術を習得させるという行き方ですから、技術教育は決して通り一遍のものに終わってはならないし、実習実験を除外しては教科の目標を達成することは不可能な教材であると知りつつも、多くにわたる盛りたくさんな教材を、限られた時間に指導して行くことは、教師にとって大きな悩みの一つなのであります。そこで私はここに技術教育はいかにあるべきか、その試みとして、裁縫ミシンの分解修理の実践研究をすすめて来たしだいでありませう。

II 方 法

- (1) 人員……………一年の男子44名 女子47名
- (2) 時間……………12時間(週2時間)
- (3) ミシン台数……8台 各班6名男女別グループで
8班編成
- (4) 指導順序
 1. ミシン各部の外部的名称
 2. 足ふみ
 3. から縫い
 4. 縫い方
 5. 注油法
 6. ミシン各部の内部的名称
 7. 各部の働き
 8. 調整法
 9. 手入れ、分解、組立
 10. 故障の原因、発見
 11. 故障の修理
 12. 画用紙に円と角(◎)を印刷したものを糸なしで縫う
 13. 雑布を縫う

III 実 践 記 録

1. 各部の名称

それぞれの部分を指して、各部の名称を覚えるのだが、なかなか覚えられなく一回で覚えた者男5名、女11名、二回で覚えたもの男女共10名、三回以上で覚えた者男29名、女23名であった。

2. 足 ぶ み

まずベルトのはめ方、これは思ったより簡単で一回で出来た者男40名、女42名、二回、三回とかかった者男7名、女8名、はずみ車の逆転もあまりなく、一回で出来た者男36名、女40名、残りの男7名、女8名はなかなか呼吸が覚えられず苦勞した。

3. から 縫 い

針のつけ方は困難なく、すらすらと順調に覚えられ、一回で86名が出来た。

4. 縫 い 方

上糸が一回で正しくかけられた者男20名、女29名、二回で男18名、女15名、三回目で覚えられた者男6名、女3名であった。

下糸では準備がもっともむずかしく、ことにケースにボビンを入れる時逆に入れたものが男8名、女5名もあった。

5. 注 油 法

アームの部では大体全員出来た。ベット裏面では45名の半数が二、三回で脚部では、全員一回で出来た。

6. 各部の内部的名称

大体一回で覚えられた。

7. 各部の働き

はずみ車を動かして運動を起しながら、動力関係であるが、これも女3名を除いてはすらすらと覚えられた。

8. 調 整 法

送り金の高さの調整、針目の調整、上糸、下糸の調

整は、男2名を除いて全員出来た。

9. 手入れ、分解、組立

かまの分解、組立で中がまの出し入れ、大がまのはめこみ、ねじ穴を合わせ、とめねじをする。これの出来ないもの男3名、女2名あった。

10. 故障の原因、発見

学校で雑布を縫っている間に経験した故障について調べた結果は、次の通りである。

- 上糸の切れる場合
 - 上糸の通し方が違っている時……………男0名、女20名 計20名
 - 糸調子かげん、ねじのきつすぎた時……………男19名、女16名 計35名
 - 針のつけ方が違っている時……………男0名、女20名 計20名
 - はずみ車が逆転した時…男5名、女5名 計10名
 - 大がまに糸がからみこんでいた時……………男5名、女3名 計8名
- 下糸の切れる場合
 - ボビンケースの調子、ねじがきつすぎた時……………男15名、女15名 計30名
 - 下糸の巻き方、糸、針、布の関係が不調和の時……………男8名、女11名 計19名
- 針目がとぶ場合
 - 針のさし方の悪い時…男4名、女9名 計13名
 - 布の厚みに変化のある時男4名、女5名 計9名
 - 布をひっぱりすぎた時…男4名、女0名 計4名
 - 布にのり気のある時…男3名、女0名 計3名
- 布が動かない場合
 - 針が曲っている時……………男7名、女0名 計7名
 - 送り金が低くすぎたり、なめらかにならなかった時……………男9名、女29名 計38名
 - 押え金の圧力が弱い時…男0名、女11名 計11名
 - 布が薄すぎた時……………男5名、女0名 計5名
 - その他の時……………男5名、女3名 計8名
- ミシンが重い、音が高い場合
 - 油が不足している時……………男24名、女26名 計50名
 - 古いミシン油が固着している時……………男0名、女8名 計8名
 - ベルトが強すぎた時……………男6名、女0名 計6名
 - シャトルに糸が入った時男6名、女8名 計14名
 - ねじのどこかがゆるんでいた時……………男2名、女0名 計2名
- 回転がうまく伝わらない場合
 - ストップモーションのねじがゆるんだ時……………

- ……………男0名、女5名 計5名
- ベルトがゆるい時……………男3名、女7名 計10名
- 自分でなおせなかった故障
 - 針目調節器がこわれた時男3名、女5名 計8名
 - 押え金が下って来た時…男3名、女4名 計7名
 - その他の時……………男7名、女4名 計11名

11. 故障の修理

故障の修理は、そのつど指導してきたし、他の学年がブラウスの製作をしていたので故障箇所が多く指導するのに、いろいろな故障発見、原因がわかり覚えるのによかったと思うが、全員が操作、修理を覚えるのは大変な苦勞であった。

Ⅵ 生徒の感想反省

1. よいと思ったこと

- 友達どうし助け合って勉強した。
- 自分で雑布が縫えるようになってうれしい。
- 家でミシンの修理をしたり、簡単なものを縫うようになったので母にほめられたのでうれしい。

2. 悪いと思ったこと

- 他の人が余りいじりすぎるので故障が多すぎる。
- ミシンの出し入れが不便。

3. 困ったこと

- ミシンの台数が少いので、練習に時間が足りなくとても困った。
- 故障の原因がわからない時に困った。
- 針がよく折れて困った。(男子に多い)

4. こうしたらよいと思うこと

- ミシンをもっとふやしてほしいと思う。
- 時間をもっとふやしてもらいたいと思う。

Ⅴ 教師の感想反省

1. 生徒の感想を今後の問題点として、考え反省してよりよいものにしたい。
2. グループ別で相互研究をすることによって、協力学習が出来るようになった。
3. 教師は個人個人の能力に応じて、自主的学習をするうちに、個人の困難点、問題点を直接指導することが出来る。
4. 古いミシンで分解組立をしたので、常に使用出来ないミシンが活用出来た。
5. 男子の生徒は、針を正しくつけなかったり、乱暴

にあつかうので、針を毎時間2本位ずつ折って困った。

6. ミシンの頭部、脚部が別々に保管してあるので、出し入れに時間がかかり困った。
7. 男女差があると思われていたために、男女別のグループで編成してみたが、男女差は余りなかった。
8. 限られた時間に全員が縫えるようにするのは大変な苦勞であった。

VI おわりに

とかく上滑りになりがちな、基礎技術をよりいっそう自主的に、能率的に、学習することが出来るよう、今後の参考にして行きたいと思います。男女差が認められなかったので、次の機会には級を設けて、一級ごとに進級するようにしたら、もっと早く覚えられるのではないかと思われます。